

## 原発事故避難者に福島への帰還の強制をやめ 希望者全員が避難先に住み続けることのできる支援策を!

### 6月7日、東京都の住宅担当の課長と話し合いを行いました。

東京都には5,526人の原発事故避難者が暮らしており、そのうち約1,400人が区域外からの避難者、いわゆる自主避難者です。

来年3月末に迫った自主避難者への住宅無償提供の打ち切りに関して、東京都に対し、現在の都営住宅などに来年4月以降も住み続けるための支援策を求める話し合いをキビタキの会が行いました。話し合いには都市整備局から住宅施策専門課長・管理企画担当課長が、総務局からは都内避難者支援課長らが出席し、避難者の要望を聞き、意見交換をしました。

福島県が昨年12月25日に発表した2017年4月以降の支援策に対する評価については、「他の自治体の施策にコメントすることはできない」という態度に終始しました。

都の独自の支援策については、事前の質問項目に『鳥取県や埼玉県などで、自治体独自の支援策を実施する動きもある。東京都でも、実施するべきではないか。阪神淡路大震災では、神戸市・西宮市はUR賃貸住宅と20年間の契約を結び、公営住宅家賃との差額相当分を支払ってき



たが、東京都でも実施できないか』との内容を書いており、また、現在都営住宅に住んでいる原発事故避難者が2017年4月以降住み続ける支援策についても、『都営住宅の募集要件にも福島県の支援策にも該当しない世帯への対応』などを質問しましたが、具体的な回答はありませんでした。

しかし、今出されている支援策に該当しない人が多いとの意見は「福島県に伝えていきたい」と約束。都による支援策に関しては「各人の所得などを把握するために個別の面談をしている。6月いっぱい訪問を行い、その後どうするかを検討する」ことを明言したことは成果です。

### 6月13日、東京都から新たな支援策が発表されました。

～さらに避難者の実情にあった内容になるよう要望を続けます～

東京都都市整備局は6月13日、自主避難者への新たな住宅支援策として都営住宅公募における200戸の専用枠の設定を発表しました。

東京都は「ひとり親世帯・高齢者世帯・心身障害者世帯・多子世帯・特に所得の低い一般世帯・幼い子どものいる世帯」を条件にしています。これはかなりの世帯が該当しますが、約600世帯の自主避難者世帯に対して200戸では少なすぎます。該当する都営住宅の場所も明らかで

ないので、引越しが必要となるケース・子どもが転校せざるを得ないケースもありえます。また所得も月額15万8千円以下を条件としているので、該当世帯が少なくなると予測されます。

東京都が独自の支援策を打ち出したことは一歩前進ではありますが、残念ながら、これでは避難者の実情に沿ったものとは言えません。引き続き東京都との話し合いを進めていきたいと思えます。

# 避難者の実情に合わない支援策の抜本的見直しを!

～12月25日 福島県から2017年度以降の支援策が示されました～

福島県は12月25日に「総合的支援策」を発表。しかし、避難先にとどまる者に対しては、2017年度は家賃の半額(最高で3万円)・その翌年は3分の1(最高で2万円)、引越しの際の敷金礼金など初期費用で10万円支給、などというものです。

武蔵野市で言えば6万円の家賃では古いアパートかワンルームマンションしか借りれない金額で、2人以上の家族では狭すぎるなど、全く実情にあっていません。



2月7日、中野区で開かれた福島県による新たな支援策の説明会では多くの避難者から疑問や不安の声が寄せられました。

## 避難者の声 ～武蔵野市の都営住宅で避難生活を送っている方に思いを語っていただきました

●署名にご協力いただき、ありがとうございました。原発事故のあった福島県双葉郡は、6町と2村で構成されています。私は双葉郡の葛尾村という一村に住んでいました。自然豊かだった私の村は、放射能に汚され、帰りたくても帰れません。国と県は復興復興と叫んでいますが、汚染ブクロの始末もできず、町にも村にも山積みのまま。ここに子どもを連れてお母さんたちは帰れません。

自主避難者も強制避難者も皆同じです。放射能の恐ろしさから逃れて、この武蔵野に住んでいます。不幸中の幸いとも言えますか、この武蔵野は、環境もよく、市民の方や議員さんにも支えられて感謝の日々を過ごしています。

●私は、震災のとき、いわき市に住んでいました。夫は頻りに、私と娘は週に一度訪れていた場所で、原発事故が起きましたが、私たちは区域外避難(自主避難)とされました。慣れない土地でのストレスで、家族の何人も発病したり、入院したり、一緒に仲良く暮らしていた家族もバラバ

ラになりました。原発事故さえなければ・・・と毎日思います。このままでは、今の住宅ももうすぐ住めなくなります。先の見えない不安から眠れない・落ち着かない不安定な気持ちでいっぱいです。県の出した支援策にも私たちは該当しません。どこに住めば良いのでしょうか・・・私たちのせいではないのに。

●震災から5年の月日が経とうとしています。私は、福島市に住んでいました。2011年お腹にいた子どもは4歳になり、福島を知らずに育っています。5年という避難生活は子どもには、今住んでいる武蔵野市が故郷に変わってきています。

突然の、命の選択で故郷を追われました。もう一度、同じ思いを私たちや子どもたちにさせないでください。2011年3月10日に戻るには程遠いです。それは、原発事故が終わっていない現在進行形だからです。どうか、多くの方のお力添えをよろしくお願いいたします。

(2016年2月にお話をうかがいました)

## キビタキの会について

2014年2月結成。原発事故避難者の安心できる生活のため、2014年3月19日 東京都と、同年6月9日 関係省庁と、2015年5月29日 関係省庁・東京都・福島県と話し合いを重ねてきました。普段は避難者支援に関する情報共有や地域での交流・親睦に努めています。また原発事故被害者団体連絡会に加盟しています。

## カンパにご協力をお願いします

集会や交渉時の交通費・チラシ作成・郵送等にあてます。

●ゆうちょ銀行から

口座記号番号:00160-5-672888 口座名称:キビタキノカイ

●他行から

店番:019 口座番号:当座 0672888 名義:キビタキノカイ